

2  
月



# 美園小だより

令和7年1月31日  
さいたま市立美園小学校  
第174号 児童数 1063名  
Tel 048(812)6611  
Fax 048(878)6660

可能性を引き出し、伸ばす

校長 河野 秀樹



〈なかよしプレイランド〉

子どもたちの可能性を引き出し、伸ばすためにはどうしたらよいのでしょうか。

1月に学校の近くにある映画館で「小学校 それは小さな社会」を観ました。本校の教員も何人か行ったそうです。この映画は日本の公立小学校を1年間密着したドキュメンタリーです。海外で先行上映され、反響を呼び、逆輸入されました。悔しくて泣いている男の子に「一緒に悲しい気持ちにな

ってあげるの、優しくとても素敵なこと」と、先生が声をかけている場面や、厳しく指導するだけでなく「できたじゃん。ちゃんと音が出ていたよ。昼休み先生と一緒に苦手なところを練習しよう。先生は信じているから」と寄り添いながら、成功した喜びや努力する大切さに気付かせる場面。また、友達が「大丈夫。僕もよく間違えるよ。練習してるけどね。まずやってみようか」と励ます場面など。日本ではごく当たり前の日常ですが、海外では驚きをもって受け止められているようです。

本校では、「異年齢集団の活動を通して、上級生は下級生に対する思いやりのある接し方を学び、上級生としての自覚をもって活動をリードする役割を果たす。下級生は、上級生と一緒に進んで参加し、かかわり合うことで所属感や充実感を感じることができる」というねらいで、年間を通じて縦割り活動を行っています。今年度から1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生のペア学級からグループを作っています。12月に行われた「なかよしプレイランド」では、それぞれのなかよし班が重さ当てゲームや輪投げ、ペットボトルボーリング、10秒当てゲームなど特色あるゲームの企画・運営を協力して行いました。下級生が大きな声で呼び込みをして楽しんでいる姿や、上級生が「次どこへ行く？」と下級生と手をつないで移動する姿が印象的でした。

「子どもだけの町」という本があります。子どもたちのいたずらが過ぎるので、親たちは懲らしめるために町を去ってしまいます。スイッチを入れれば電気がつき、栓をひねれば水が出る。当たり前のように思っていたことが、町にいるのが子どもだけになった途端にあらゆることが不自由になり、残された子どもたちは不安になります。しかし、そこからリーダーが出現し、失敗をしながらも町（社会）をどのように動かしていったらよいか試行錯誤を始めるのです。水がないので雨水をためて使ったり、寒いので暖炉を使えるようにしたり、料理のために火をつけたり、みんなに呼びかけるために印刷機でポスターを作ったり、電気が止まってしまったので発電所を使えるようにしたりして、水や電力を手に入れます。さらに、役割を決め、ルールも定め、それを掲示して周知していく。組織が出来上がり、適材適所で子どもたち一人一人が活躍していく。

学校は小さな社会です。その中で、一人一人の可能性を引き出し伸ばしていきたいものです。そのためには、子どもたちが自分の周りにはいる様々な人とかかわりをもつ場や、子どもたちだけで解決していかなければならない状況を設ける必要があると考えます。その上で、私たち教職員や大人は伴走支援していく、そんなことが求められるのではないのでしょうか。

参考図書：「子どもだけの町」 ヘンリー・ウィンターフェルト 作 大塚勇三 訳 フェリシモ出版